



油断大敵 みんなで防ごう油の流出事故 ～注意は数分、事故処理は数日にも～

油や有害な物質が川へ流出すると、魚が死んだり、水道水の取水ができなくなることがあります。

このような水質事故は、令和2年に新潟県内の信濃川水系では147件発生しており、そのうち50件が信濃川下流域で発生しています。

誤って油等を流出してしまった場合や事故を発見したら、直ちに最寄りの消防署、市町村役場又は県の環境センターに連絡して下さい。迅速な対応が被害の発生や拡大を防ぐこととなります。

河川等に流出した油等の回収・処理のための費用は、原因者の負担となりますので、取扱には十分注意してください。

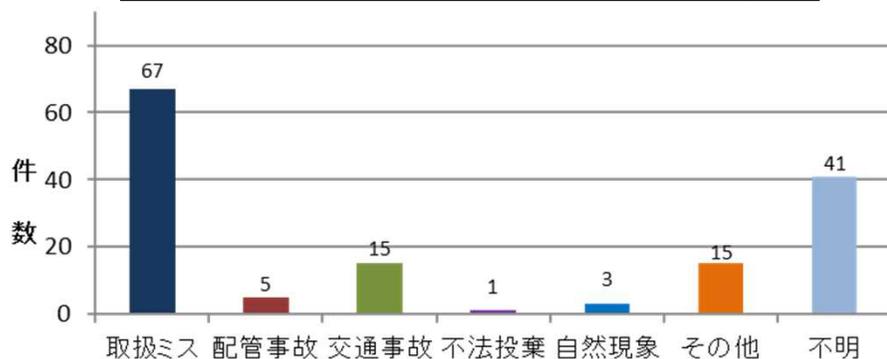


ーオイルフェンス、吸着マット設置状況ー

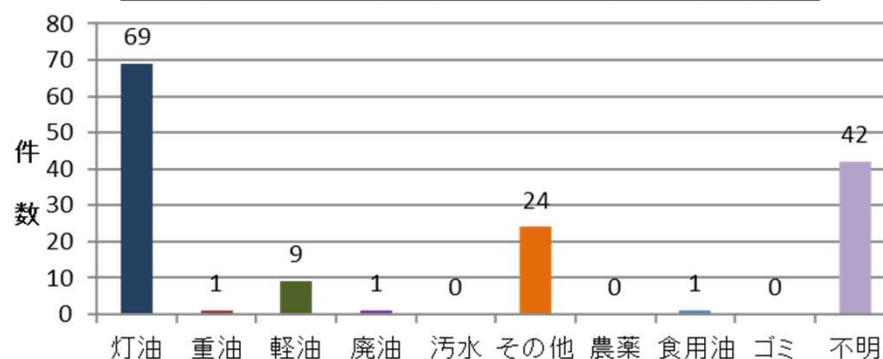
水質事故を防ぐポイント

- 給油作業中は、絶対に現場を離れないようにしましょう。
- 給油後は、忘れずにバルブをきちんと閉めましょう。
- タンクや配管に破損がないか、よく点検しましょう。
- 油送設備の操作ミス、誤操作に注意しましょう。

R 2 信濃川水系 事故原因別 水質事故 (新潟県)



R 2 信濃川水系 原因物質別 水質事故 (新潟県)



※ 水質事故を原因別にみると、「取扱いミス」による件数が全体の約4割を超えています。また、原因物質でみると、灯油等の油類が全体の半数を超えています。特に冬場は、灯油の使用する機会が増えますので、取扱いには十分ご注意ください。